



本文書の位置づけ及び目次

- 地域でCFP¹の人材育成を実施したい方々に対して、地域でのCFPの取り組み方をガイドします

本文書の位置づけ

- カーボンフットプリント (CFP: Carbon Footprint of Product) について理解している人材を増やし、CFPを活用したいと考えている、企業、自治体、団体、金融機関、支援機関等を対象にした文書です
- 本文書では地域に焦点をあて、CFPの算定等に取り組む意義を理解し、CFPを活用できる人材を地域内で育成していくために、どのような取組をするとよいかを紹介しています

目次

- CFPとは
- 地域で人材育成に取り組む効果
- CFPの学び方
- 参考 CFPモデル事業 (地域人材育成支援) の紹介





目次



CFPとは

- 地域で人材育成に取り組む効果
- CFPの学び方
- 参考 CFPモデル事業 (地域人材育成支援) の紹介



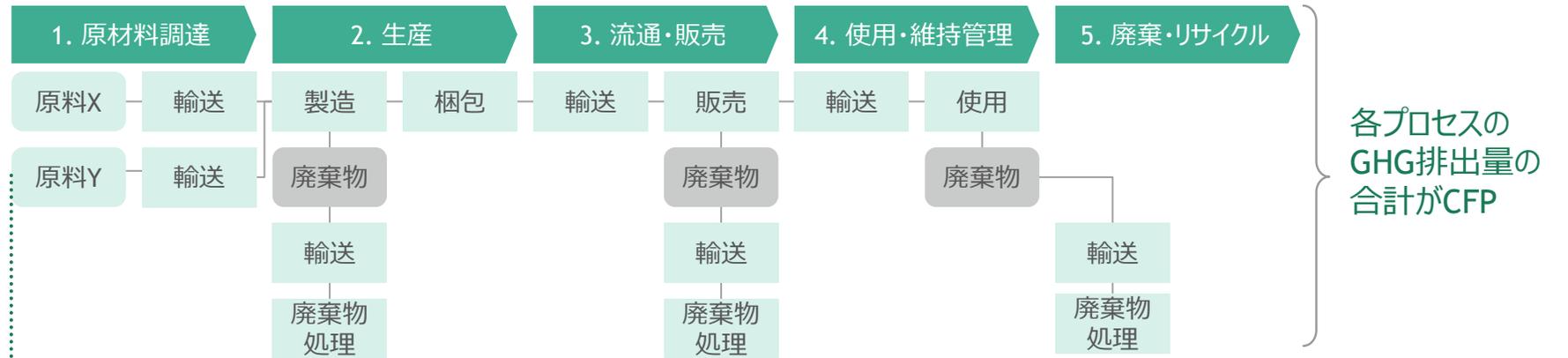
CFPの定義

- 製品・サービスの原材料調達から廃棄・リサイクルまでの温室効果ガス (GHG)¹ の排出量を足し合わせたものを、CFP: Carbon Footprint of Productといいます



カーボンフットプリント (CFP)

(例) 12.5kg-CO₂e
ライフサイクル全体 (原材料調達から廃棄・リサイクルまで) を通じたGHG排出量を、CO₂排出量に換算した値



各プロセスのGHG排出量の合計がCFP

活動量

原材料の重量、製造における電力投入量等

×

排出係数

各プロセスの単位あたりのGHG排出量

(例) 原料Y生産の排出係数 ●● kg-CO₂e/kg

実際の算定では、表計算ソフトを用いる

製品名		原材料		排出係数		GHG排出量	
数量	単価	重量	単価	排出係数	単価	排出量	単価
100	1000	1000	1000	0.05	50	50000	500
200	2000	2000	2000	0.05	100	200000	1000
300	3000	3000	3000	0.05	150	300000	1500
400	4000	4000	4000	0.05	200	400000	2000
500	5000	5000	5000	0.05	250	500000	2500
600	6000	6000	6000	0.05	300	600000	3000
700	7000	7000	7000	0.05	350	700000	3500
800	8000	8000	8000	0.05	400	800000	4000
900	9000	9000	9000	0.05	450	900000	4500
1000	10000	10000	10000	0.05	500	1000000	5000

1. Greenhouse Gasの略。二酸化炭素(CO₂)やメタン(CH₄)、一酸化二窒素(N₂O)、フロンガス等が該当する
 出所: 経済産業省、環境省「カーボンフットプリントガイドライン(別冊)CFP 実践ガイド」; 環境省「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム カーボンフットプリント全般」; 環境省「CFP入門ガイド」



目次

- CFPとは
-  地域で人材育成に取り組む効果
- CFPの学び方
- 参考 CFPモデル事業 (地域人材育成支援) の紹介

地域で取り組むことで得られる効果

- CFPに取り組むことは、地域の課題を解決する脱炭素に向けたアクションになり得ます
- 地域の企業、自治体、団体等がともに取り組むことで、ノウハウの共有や連携体制の強化につながります

地域に存在する課題の例

得られる効果の例



企業

脱炭素製品を作りたい

どこから手を付けるべきかわからない



地域で付き合いのある企業と一緒にCFPを学べる

CFP算定の知見やノウハウの共有ができる



自治体

脱炭素に資する地域の特産品をアピールしたい

どうやってアピールすればよいかわからない



地域の企業と一緒にCFPの算定ができる

地域の脱炭素製品のブランディングができる



金融・支援機関

地域の企業の脱炭素製品の販路拡大をサポートしたい

取引先がサプライヤーから排出量の提供を求められた



他金融機関との連携体制をつくることできる

取引先に対してCFPに関する提案ができる



CFP人材育成によるメリット

- 地域のCFP人材育成に取り組むことで、地域全体でCFPの算定・表示を活用できる人材が増え、地域のブランド力向上や地域内企業の脱炭素製品・サービスの広がりが期待できます

地域でCFP人材育成を実施すると・・・

地域におけるメリット



CFP算定・表示を活用できる**人材が増え**、地域内で、柔軟に算定やGHG削減に取り組むことができる



学んだ者がアドバイザーや講師役として知見を広め、**地域全体でCFPの活用が進む**



環境意識の高い地域として発信しやすくなり、**地域のブランド力向上**につながる

組織におけるメリット



組織内でCFP算定・表示を行える人材を育成することで、脱炭素化を目指す**開発・取組を自社内で、タイムリーに評価**できる



製品リニューアル時のCFP更新や、排出量データに関する**顧客からの依頼等に迅速に対応**できる



ホットスポット分析を通じて、**サプライチェーン上のパートナー企業と連携し、GHG削減策の検討を開始**できる



目次

- CFPとは
- 地域で人材育成に取り組む効果

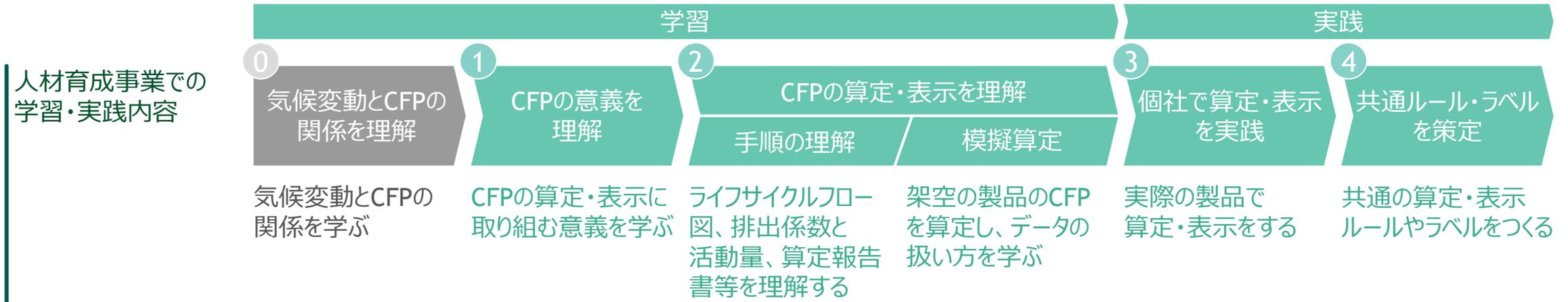


CFPの学び方

- 参考 CFPモデル事業 (地域人材育成支援) の紹介

使えるコンテンツ

- 人材育成の対象者 (企業等のサステナビリティ担当者または初心者) に応じ、コンテンツは2パターンあります
- 左の ① ~ ④ の順に、対応するコンテンツをご使用ください。 ※次ページから、その使用イメージを説明します



使える コンテンツ	企業等の サステナ ビリティ 担当者用 ¹	実務の中で既に 学習済と想定	<ul style="list-style-type: none"> • CFP人材育成ガイド (本紙) 別冊 ①-③ - <u>CFP算定・ 表示の意義</u> (別冊①) - <u>CFP算定・ 表示の手順</u> (別冊②) - <u>CFP模擬算定</u> (別冊③) 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>CFPガイドライン</u>² • <u>CFP実践ガイド</u>³ • <u>CFP表示ガイド</u>⁴ • <u>CFP算定用シナ リオライブラリー</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>CFP共通ルール 策定ガイド</u>
	初心者用	<ul style="list-style-type: none"> • <u>今日から減らすCO₂ –中学生からわかるCFP–</u> 			

1. CFP算定や表示を行う者を想定; 2. 経済産業省、環境省「カーボンフットプリント ガイドライン」; 3. 経済産業省、環境省「カーボンフットプリント ガイドライン (別冊) CFP実践ガイド」;
4. 環境省・経済産業省「カーボンフットプリント 表示ガイド」
出所: 環境省「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム カーボンフットプリント全般」



次ページ以降の資料の読み方

- P9で紹介したコンテンツを用いたCFPの学び方の例を以降のページで記載しています。各種コンテンツを用いた人材育成事業を実施する際の参考にしてください

使えるコンテンツ



人材育成で、**すぐに使うことができるコンテンツ**とその概要を紹介しています

- P9と対応した記載となっています



コンテンツを使った人材育成の例

実施事項



人材育成時に上記コンテンツを活用しながら**実施すること**を例示しています

所要時間



実施にあたって要する時間の目安を入れています

実施体制



事業の実施体制の想定を入れています

- それぞれの事業に共通して、事業の主催者としては、企業、自治体、商工会、団体、支援機関等を想定しています

想定されるゴール

スキル



事業を通じて**身に付けられるとよいスキルやマインド**を例示しています

- 事業終了後に、参加者がどのような姿になっているとよいかの参考にしてください

マインド



企業等のサステナビリティ担当者 学び方イメージ

- 企業等のサステナビリティ担当者が地域で集まり、CFPの意義や算定・表示の手順を学ぶ場合には、本紙の別冊資料①-③を用いて、学びあいの勉強会を行うとよいでしょう

		1	2	
		CFPの意義を理解	CFPの算定・表示を理解	
			手順の理解	模擬算定
使える コンテンツ		CFP人材育成ガイド (本紙) 別冊 ①-③ 別冊① CFP算定・表示の意義 <ul style="list-style-type: none"> CFPの必要性を解説 	別冊② CFP算定・表示の手順 <ul style="list-style-type: none"> 算定・表示の手順とポイントを解説 	別冊③ CFP模擬算定 <ul style="list-style-type: none"> 架空の商品を題材にCFPを簡易算定
		✓	✓	✓
コンテンツを 使った人材 育成の例	実施事項	勉強会形式で学ぶ <ul style="list-style-type: none"> 意義についてお互いに話しあう CFP算定実施企業の取組を参考にすると、意義や活用方法がより理解しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 算定の手順、排出係数と活動量、算定報告書等を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 架空の商品を題材に、データ等を扱って模擬算定を行う
	所要時間	1-2時間	1時間	2-3時間
	実施体制	主催者が勉強会の方向性や大枠を検討し、地域内の企業等に対して、勉強会の場やコンテンツの提供を行う		
想定される ゴール	スキル	CFP算定に取り組むと、どのような効果が見込めそうかを説明できる	ライフサイクルフロー図、排出係数、活動量を説明できる	自社製品で算定する場合、必要なデータや算定方法をイメージできる
	マインド	自社でCFPの算定や表示の検討を始めてみようと思える		

企業等のサステナビリティ担当者 算定・表示の実践イメージ

- 算定・表示に取り組む場合には、地域の企業、自治体、団体、金融機関、支援機関等が定期的に集まり、互いの疑問点を相談・解消しあって進めるとよいでしょう

3

個社で算定・表示を实践

実際の製品でCFPを算定

実際の製品でCFPを表示

使える
コンテンツ



CFP実践ガイド

- CFPガイドラインの基礎要件を満たす算定・表示方法をガイド

CFP算定用シナリオライブラリー

- CFPの算定に用いることのできるシナリオを紹介

CFP表示ガイド

- CFPの値や関連情報の示し方をガイド



コンテンツを
使った人材
育成の例

実施事項



地域の企業等が集まり、**実際の製品で算定・表示をする** (参考: P22,23 SAGA COLLECTIVEの事例)

- お互いの進捗共有、疑問点・つまずきの解消等を行う
- データ入手や算定ツール (表計算ソフト等) への入力は各社個別に行う
- 表示の方法や媒体の検討・実施等は各社個別に行う
- 4** 共通ルールの策定を並行して行い、共通の表示を検討してもよい

所要時間



1時間 (2週間~1か月に1回程度集まる)

実施体制



主催者が地域の企業等によるCFP算定・表示の实践を促す事業 (ワークショップ、講習会等) を設計し、脱炭素製品・サービスの開発・提供に取り組む企業等に対して声をかけ、実施体制を構築する

想定される
ゴール

スキル



シナリオの設定や配分等の考え方等を理解し、**実際の製品でのCFPの算定ができる**

CFPとともに**表示する事項を理解し、また、算定報告書が書けるようになる**

マインド



算定用ツールの使い方、ノウハウがわかったので、**他製品でも算定してみよう**と思える

作成した算定報告書を他の製品にも活用して、**表示製品を増やそう**と思える

企業等のサステナビリティ担当者 共通ルール・ラベルの策定イメージ

- 地域の共通のルールやラベルを作成する場合には、地域の企業、自治体、団体、金融機関、支援機関等が集まり、既存の地域や業界のルール等を参考にしながら取り組むとよいでしょう

4 共通ルール・ラベルを策定

		地域の共通算定・表示ルール策定	地域の共通ラベル策定
使えるコンテンツ		<p><u>CFP共通ルール策定ガイド</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 複数団体でルールを策定する際のステップやポイントをガイド <p><u>業界や地域別のCFP算定・表示ルール</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 業界や地域で策定された算定・表示のルール 	—
コンテンツを使った人材育成の例		<p><u>実施事項</u> </p> <p>地域の企業等が集まり、共通の算定・表示のルールをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> メンバーにはCFPの算定経験者を少なくとも1名入れる 策定メンバー以外からルールについてフィードバックをもらう <ul style="list-style-type: none"> CFP算定で協力が必要な関係部署 (調達部門等) ルールを活用する可能性がある企業等 	<p></p> <p>共通のCFP算定・表示ルールを使う地域の企業等が集まり、地域内共通のラベルをつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ルールはラベルと並行して検討してもよい <p>(参考: P22,23 SAGA COLLECTIVEの事例)</p>
	<u>所要時間</u> 	<p>1時間 (2週間~1か月に1回程度集まる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ルールやラベルの要件・案の議論 45分 	<ul style="list-style-type: none"> 次回までの検討事項確認 15分
	<u>実施体制</u> 	<p>主催者がCFP共通ルール・ラベル策定を目的とする事業を設計し、CFPの算定に取り組んだことがある企業や脱炭素製品・サービスの開発・提供に取り組む企業等に対して声をかけ、座組の構築や事業全体の運営等を行う</p>	
想定されるゴール	<u>スキル</u> 	<p>ルールに沿った算定・表示の仕方を説明できる</p>	<p>地域共通のラベルの目的について説明できる</p>
	<u>マインド</u> 	<p>地域内のルールをつかったCFP算定・表示を広げていこうと思える</p>	<p>ラベルを用いて、脱炭素化でブランディングしていこうと思える</p>

初心者 学び方イメージ

- 初心者にCFPの意義や算定・表示の基本を学んでもらう場合には、「今日から減らすCO₂ –中学生からわかるCFP–」を用いて、経験者を講師とするセミナーを行うとよいでしょう



使える
コンテンツ



今日から減らすCO₂ –中学生からわかるCFP–

- 「気候変動を知ろう」「どれくらいCO₂を出しているか知ろう」「どうしたらCO₂を減らせるか考えてみよう」の3ステップでガイド

コンテンツを
使った人材
育成の例

実施事項



セミナー形式で学ぶ (自治体・地銀・地元団体等の環境の担当者、既にCFPの算定・表示に取り組んでいる企業等が講師となる)

ワークショップ形式で、架空の製品のCFP算定演習を行い、講師がアドバイスする

(参考: P20,21 しずおかカーボンニュートラル金融コンソーシアムの事例)

所要時間



1-2時間

1時間

1-2時間

実施体制



主催者が、セミナーの設計・運営を行い、地域内企業等に対してセミナーを行う

想定される
ゴール

スキル



地域内の企業等に、CFP算定に取り組むと、どのような効果が見込めそうかを説明できる

CFPに興味がある者に、ライフサイクルフロー図、排出係数、活動量の説明ができる

CFPに興味がある者に、どういったデータがあればCFPを算定できそうかを説明できる

マインド



受講した支援機関等は、地域の脱炭素に取り組んでいる企業に、CFPの算定や表示を提案してみようと思える
受講した企業等は、CFPの算定や表示に関して具体的に取組んでみようと思える



目次

- CFPとは
- 地域で人材育成に取り組む効果
- CFPの学び方

 参考 CFPモデル事業 (地域人材育成支援) の紹介

モデル事業の概要

- 環境省では、R7年度に地域のCFPの普及をリードする人材を育成する事業を実施しました

背景と目的

- 「消費者が積極的に脱炭素に貢献する製品・サービスを選択できる社会」を実現するためには、購買活動における気候変動影響が、CFPを通じて消費者に「見える化」される必要がある
- 他方、特に中小企業等においては、CFPに精通した人材は少なく、人材が都市部に集中していることから、地域におけるCFPの算定表示に係る人材の育成が急務
- CFPに関する知見を持った者が、CFPにこれから取り組む者を指導し、より取組を広げていくことが望まれる
- 本事業では、地域におけるCFP算定・表示に係る人材育成のモデルを創出する

事業全体の流れ



対象事業及び対象団体

- CFPに係る人材育成につながる取組を対象とし、2団体を採択しました

対象事業

CFPの人材育成につながる取組を対象とする

望ましい例

- CFPにフォーカスをあてた事業
 - CFPについて学ぶセミナーの実施
 - CFPについて教えるコンテンツの作成
 - 地域製品向けのCFP算定・表示ルール策定

望ましくない例

- CFPにフォーカスをあてていない事業
 - Scope3に関する講演/セミナーの実施
- 単独個社への支援
 - 社内でのCFP勉強会の実施

対象団体等 (応募パターン)

CFPの算定・表示の人材を育成したい・
地域内のCFPの普及に取り組みたい団体を対象とする

- 自治体
- 商工会議所
- 金融機関
- 大学等の教育機関
- 支援機関
- 地域内の企業等

×

2パターンのうちのいずれかの応募パターンとする

1

複数団体共同

2

単独団体



スケジュール

- 約8か月にわたって、参加団体の意向に沿ったCFPに係る人材育成事業の検討実施を支援しました



CFPモデル事業 (地域人材育成支援) の取組事例

- 地域のCFP人材育成事業に取り組んだ事例をご紹介します

SAGA COLLECTIVE

参加団体

- SAGA COLLECTIVE協同組合
- レグナテック株式会社
- 三福海苔株式会社
- 川原食品株式会社
- 丸秀醤油株式会社
- 天山酒造株式会社
- 有限会社井上製麺
- 株式会社徳永製茶
- 株式会社小野原製茶問屋
- 吉島伸一鍋島緞通株式会社
- 名尾手すき和紙株式会社
- 有限会社李荘窯業所

取組内容

- SAGA COLLECTIVEの製品を対象としたCFP算定・表示ルール / マニュアル策定
- SAGA COLLECTIVEの一部商品についてCFPの算定・表示
- 外部向けCFPセミナーの実施 (講師育成)

しずおかカーボンニュートラル金融コンソーシアム

- しずおかカーボン
ニュートラル金融
コンソーシアム
- 静岡県
- 富士市
- 株式会社静岡銀行
- スルガ銀行株式会社
- 株式会社清水銀行
- 株式会社静岡中央銀行
- しずおか焼津信用金庫
- 静岡信用金庫
- 浜松いわた信用金庫
- 沼津信用金庫
- 三島信用金庫
- 富士宮信用金庫
- 島田掛川信用金庫
- 富士信用金庫
- 遠州信用金庫
- 一般財団法人
静岡経済研究所
- 一般社団法人
静岡県環境資源協会

- メンバー向けCFPセミナーの実施
- 金融機関の取引先等向けCFP普及啓発セミナーの実施
- 模擬算定の実施
- 取引先を想定したCFPに関する営業等のロールプレイの実施

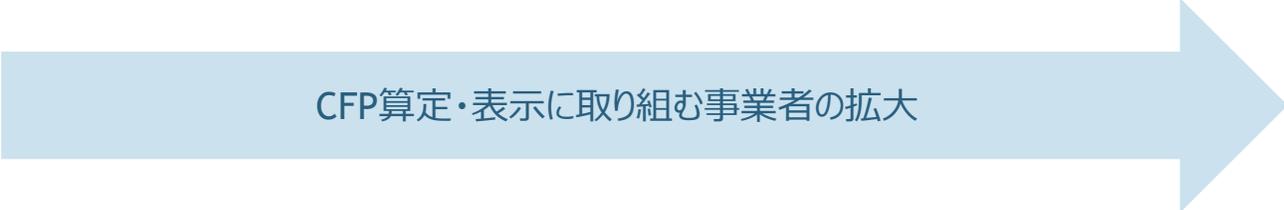
しずおかカーボンニュートラル金融コンソーシアムの取組概要

- しずおかカーボンニュートラル金融コンソーシアムでは、静岡県内の金融機関がセミナーや模擬算定を通じてCFPについて学びました
- また一部の企業は、実際に地域内のお取引先様に対して、CFPを活用した営業を行いました

	メンバー向けCFP セミナー	普及啓発セミナー	模擬算定①	模擬算定②	ロールプレイ	
目的	<ul style="list-style-type: none"> • CFPの基本や、金融機関が教える意義を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> • 企業がCFPに取り組む意義を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> • 実際の算定の流れを理解する • CFP算定の疑問点を解消する 		<ul style="list-style-type: none"> • CFPを教えられるようになっていいるかを確認する • 他金融機関が、取引先にCFPを紹介するにあたってのポイントや課題を明らかにする 	
日時場所	7月4日 15:00～17:00 産業経済会館	9月2日 13:30～15:30 あざれあ	10月20日 13:30～15:00 あざれあ	11月27日 13:30～15:00 あざれあ	9月～ (継続中)	
参加者	説明者	BCG	静岡県 ダイマツ 東京吉岡 BCG	BCG	静岡銀行	静岡銀行
	聞き手	事業参加メンバー	事業参加メンバー 取引先	事業参加メンバー	事業参加メンバー	静岡銀行の取引先

しずおかカーボンニュートラル金融コンソーシアムのロードマップ

- 2030年に向け、CFP算定・表示事業者の拡大とCFPを活用したブランディングの提案を行っていく予定です

	2026年度	2027 - 2028年度	2029 - 2030年度
ゴール	<ul style="list-style-type: none"> • 静岡県内で、CFPの算定・表示のモデルとなる取組ができる 	<ul style="list-style-type: none"> • CFPを活用した食品分野でのブランド力強化に向けた土台が築かれる 	<ul style="list-style-type: none"> • 脱炭素製品/サービスが社会全体で主流化する市場構造の実現を目指す
国の動き	<ul style="list-style-type: none"> • 脱炭素製品等の表示スキームや運用体制に関する具体的な検討を進める 	<ul style="list-style-type: none"> • 制度の試行導入を開始 • 優先分野での実践を通じ、制度の有効性/運用課題を検証 	<ul style="list-style-type: none"> • 制度の成果を可視化し、消費者・企業双方の行動変容に結びつける仕組みを定着化
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> • GHG削減に取り組む企業のCFP算定・表示の事例の創出 • アルミリサイクルメーカーのCFP算定 • お茶メーカー共同で算定モデル創出検討 	 <p>CFP算定・表示に取り組む事業者の拡大</p>	
事業参加メンバーがすること	<ul style="list-style-type: none"> • CFP補助事業の創設 • アルミリサイクルメーカーのCFP算定における伴走支援 • 静岡県内の複数のお茶メーカーに対してCFP算定を提案 	<ul style="list-style-type: none"> • GHG削減にすでに取り組んでいる取引先企業に対して、CFPを活用したブランディングを提案する 	



SAGA COLLECTIVEの取組概要

- SAGA COLLECTIVEでは、CFP算定・表示ルールを策定し、複数製品で算定・表示を行いました
- また、リーダーが県内の企業等に対してCFPについてのセミナーを実施し、CFPの認知を広めました





SAGA COLLECTIVEのロードマップ

• 2030年に向け、セミナーや伴走型支援によるCFP人材の育成や、CFP算定表示の拡大を行っていく予定です

※青字は外部連携事業

		2025	2026	2027~2028	2029~2030
ヒト	育成	<ul style="list-style-type: none"> CFP講師2名育成 		<ul style="list-style-type: none"> 自治体・支援機関職員向けのCFPを含む脱炭素経営講師・専門家育成事業 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体・支援機関職員向けのCFPを含む脱炭素経営講師・専門家育成事業
	セミナー	<ul style="list-style-type: none"> セミナー資料作成 佐賀県脱炭素経営セミナー SAGAネットゼロコンソーシアム報告会 環境省脱炭素経営フォーラム 	<ul style="list-style-type: none"> CFPセミナーを年間3件のべ参加者50名 	<ul style="list-style-type: none"> CFPセミナーを年間3件のべ参加者50名 	<ul style="list-style-type: none"> CFPセミナーを年間3件のべ参加者50名
	個別支援				<ul style="list-style-type: none"> CFP算定表示の伴走型支援 伴走型支援企業2社
モノ	算定対象	<ul style="list-style-type: none"> 6社 (11SKU) 算定： レグナテック (2)、三福海苔 (2)、 李荘窯業所 (1)、井上製麺 (3)、 名尾手すき和紙 (1)、丸秀醤油 (2) 削減量ベースラインの設定 	<ul style="list-style-type: none"> 算定企業数の拡大 累計8社程度 	<ul style="list-style-type: none"> 算定企業数の拡大 累計10社程度 	<ul style="list-style-type: none"> 算定結果のモニタリング 削減活動の定量的評価サイクル 確立
情報	表示公開	<ul style="list-style-type: none"> ロードマップ、ルール、手順書、算定フォーム、算定報告書作成 プレスリリース、環境省HP、自社HP (ニュース記事) 等での公開 サガコレECでの試験表示 徳永製茶：算定結果、算定報告書 	<ul style="list-style-type: none"> 自社ECでの試験表示： 算定結果、算定報告書 サステナビリティレポートでの報告 実店舗での表示 (POP等) 	<ul style="list-style-type: none"> 自社EC：顧客別削減量表示等 可視化とインセンティブ設計 	→
カネ	カーボンクレジット	<ul style="list-style-type: none"> カーボンオフセット対象： Scope1,2 (製品単位は金額配分) 	→	→	<ul style="list-style-type: none"> カーボンオフセット対象：CFP



作成体制・発行日

(1) 本資料作成体制

担当省庁

- 環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 脱炭素ビジネス推進室

事務局

- ボストン・コンサルティング・グループ合同会社

(2) 発行日

- 2026年2月